

平成25年度事務事業評価調書

整理番号	20	枝番	1
評価担当課	建築課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	住宅マスタープランの見直し			
総合計画の位置づけ	有 ・ 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	8	住宅の整備
		基本事業	4	住宅マスタープランの見直し及び推進
		実施計画事業	1	住宅マスタープランの見直し及び推進

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	市民が安心して快適に暮らすことができ、環境にやさしい住まいやまちをつくるため。		
対象(何を又は誰を)	市民及び市内全域		
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	計画前期における社会情勢の変化、住宅政策の動向、名寄市における住宅・住環境に関する動向を踏まえ、今後取り組むべき課題の見直しを行う。		
意図(どのような成果を期待しているか)	市民が安心して、愛着を持って住み続けられる名寄らしい住まい・住環境の実現。		
事業実施主体	名寄市		
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託 補助等 請負 その他( )
事業実施期間	始期	24 年度	終期設定 有 (終期 年度) 無
根拠法令・条例等			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H22	H23	H24	H25見込	目標年度 (24年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 計画の検証・見直し			目標		1		
				実績		1		
	2			目標				
				実績				
	3			目標				
				実績				
成果指標	1			目標				
				実績				
	2			目標				
				実績				

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算	平成24年度の事業費内訳
事業費	0	0	8,270	0	
国道支出金			4,135		
地方債					
その他					
一般財源			4,135		
人件費	0	0	1,326	0	
平均給与額	6,608	6,683	6,629	6,629	
担当職員数			0.20		
総事業費	0	0	9,596	0	
対前年比(%)	-	-	-	-	
事業コスト					
活動指標1					
活動指標2					
活動指標3					

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 ( ) 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	名寄市が今後5年間の住宅施策として行うべき目標となるガイドラインであり、全域の市民を対象としていることから市民ニーズに適合している。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	目標達成手段として住宅施策の目標を遂行するためには、裏付けとなる計画があることが条件となるので有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	委託費として前期5ヶ年の検証作業、市内不動産会社への直接の聞き取り、市民への無作為抽出によるアンケート調査及び分析、公的データの分析・推計など専門的な業務を多くおこなっており経費に見合った成果が得られている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがはないか？	a	住宅マスタープランは市の全域に居住する市民が対象であり、受益者負担は伴わないが公共性の高い計画として位置付けている。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	当初の成果指標としての見直し内容は調査、分析等十分に成果が得られたことから達成されている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	住宅マスタープランは国の住生活基本計画や北海道住生活基本計画を上位計画として名寄市が策定するものであり、市の総合計画と整合を図りながら名寄市として住宅全般の施策を推進する上で必要な計画であることから見直しを行い後期計画に反映させるものです。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	豊かな住環境整備のため、適正なガイドラインを策定した。今後も計画に即した取り組みが必要。